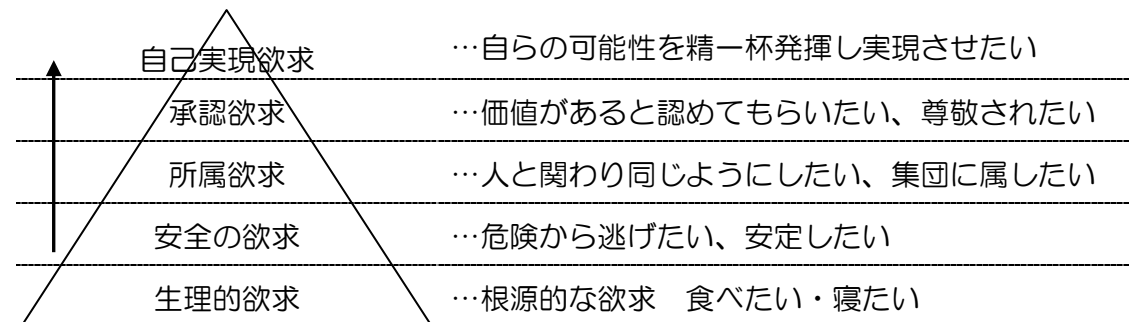


子どものより良い発達にとって「遊び」が大切であるということは、多くの大人が認識しています。ではなぜ「遊び」は大切なのでしょう？ この講座では発達心理学の知識に照らしながら「遊び」の重要性を探っていきたいと思います。

## 第2回 マズローの「欲求段階説」 Maslow.Abraham H (1908-1970)

マズローは「人間主義的心理学」の創始者といわれます。人間主義とは、人間への強い信頼感をもって「人間は自ら成長したいと願う存在だ」とする考え方です。マズローは、人間の欲求は5段階のピラミッドになっていて、人間は低い欲求が満たされると、順に高い欲求を目指していくのだという「欲求段階説」を提唱しました。



この説では、人間とは、食べて寝て、安全なところで仲間たちに囲まれ、尊敬されるだけでは満たされずに、自分がやりたいことをみつけて、それを実現させる「自己実現」を目指す存在です。逆に、自己実現を目指すためには、それ以下の欲求が満たされている（と自分が感じる）ことが必要となります。この欲求段階のピラミッドは人生を物語る壮大な大きさでありながら、日常の場面における小さいものであるともいえます。その時期や場面の小さな自己実現の繰り返しが、その人の生涯を創造していくのでしょうか。このごろどうも、日常が安定しているのになぜか不満、というような時、人は今以上の高い欲求段階に進む時期を迎えているのかもしれない。

子どももまた、基本的欲求の充足と自己実現を行いながら、その人生を創造しています。ご飯を食べ、よく寝て、自分は安全だと感じ、愛されていると感じるとき、そして認められていると感じるとき、子どもはやりたいことを見つけ、挑戦し、心から満足することができます。幼児期から児童期に焦点を当てると、この時期の子どもは（本人は無意識ですが）適切な自己イメージを作り上げようとしています。つまりこの時期は、自己実現の基盤が形成される時期としてとらえることができます。そして、それは主に自発的な遊びの場面で実現されていきます。子どもは「自分がやりたいと願う遊び」を実現していくことで、自尊心や有能感を身につけていくのです。

すなわち、子どもの「遊び」は、好ましい自分像を育てるための根っことなり、1人の人間として人生を創造していくための基礎となる、重要な活動のひとつといえるのです。

足の裏と脳の発達は密接な関係があります。裸足で土や水や心地よい床に触れると、その刺激が皮膚を通して脳に送られ、脳への刺激となります。この刺激が情緒の発達を促し、自律神経をたくましく育てていくのです。はとのさとは、この素晴らしい足の裏からの刺激を妨げないよう、体調に留意しながら、年中、素足で

**裸足**

過ごしています。園は古い建物ですが、床は檜(ヒノキ)。心とからだを育てる裸足で今日も思い切り駆け回るのはとっても大切です。

**裸足**

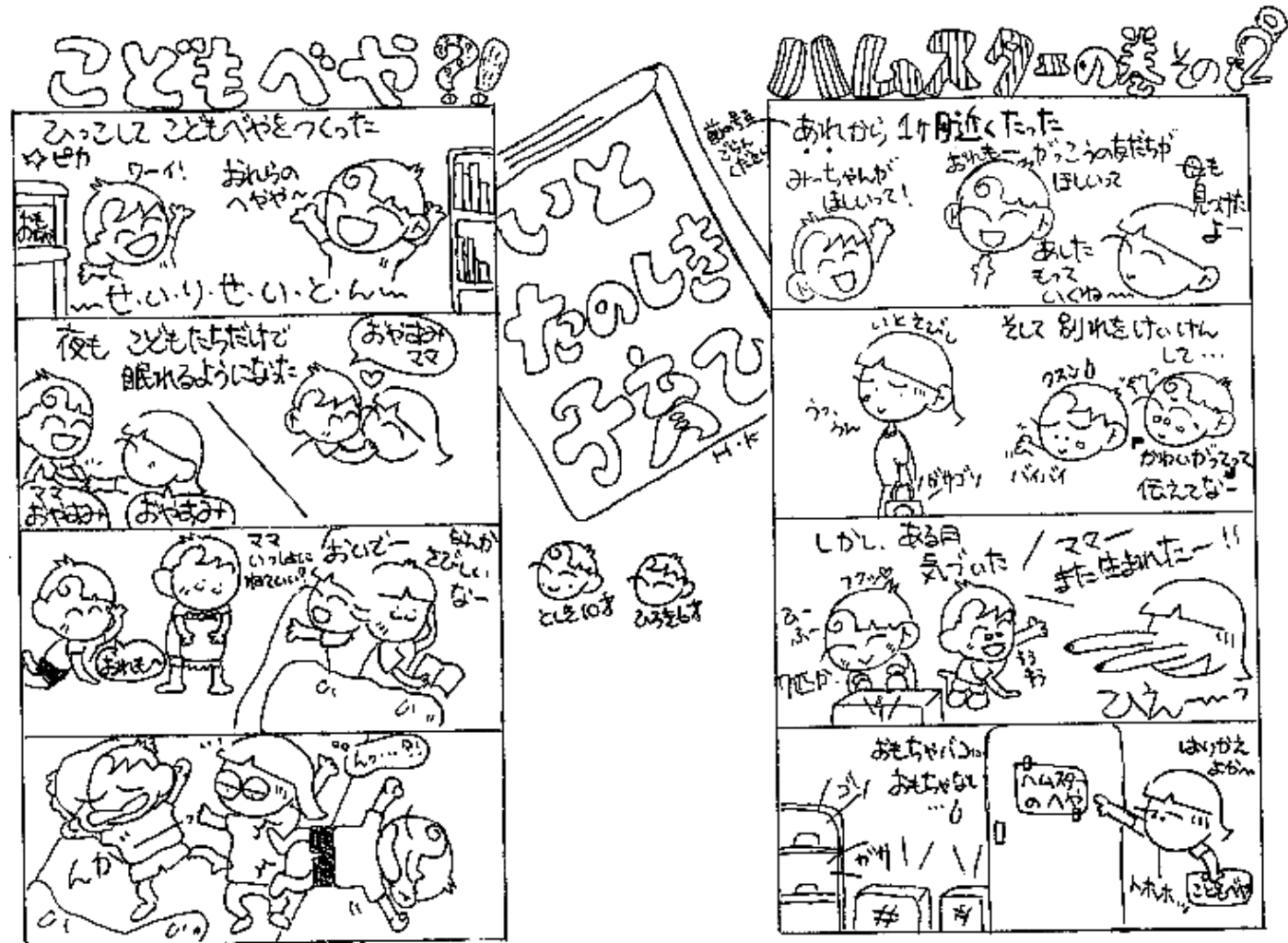


やぎのしずか⑥

『とうさんのちちしぼり』

偕成社 田島征三

ホンワカ心あたたまるやぎのし  
すかシリーズ①～⑥。なかでも  
父さんが乳しぼりに悪戦苦闘す  
るこの⑥は、子どもたちも大喜  
びです。そして最後のやぎのお  
ちちのアイスやヨーグルトなど  
「食べた～い」と言います。  
力強い絵も楽しい。



『子どもの絵をダメに  
していませんか?』

—早くから形をおしえないで—

鳥居 昭美 著 婦人生活社

「4歳までは形を教えるはいけません」もしも形を教えていた場合は・・というような親へのアドバイス、絵の発達段階、画材、などが年齢ごとに、実例を交えてわかりやすく解説されています。良かれと思ってしたことが子どもの絵を、ダメにしていることも多いようです。子どもは心を描きます。大人の思い込みや期待を押し付けることなく、子どもの心に寄り添ってその成長を見守ってあげて・・そんな著者のメッセージも伝わります。忙しいお父さんお母さんにも読みやすいおすすめの一冊です。

保育士のつぶやき

「保母さんになりたい」それが私の夢でした。そして夢が叶い、いざ保育士になってみると、保育の難しさを思い知らされる毎日でした。自分の言葉掛けや対応の一つ一つで子どもが良くも悪くも変わっていく・・責任重大な仕事なんだなあと毎日子どもと触れ合いながら感じています。子育て経験のない私にとっては、戸惑ったり悩んだりする事も沢山あります。それでも、一日一日成長していく子ども達を見ると本当にうれしくなります。日々の雑用に追われず、しっかりと子どもと向き合って遊び、子ども達の笑顔にいっぱい出会っていききたいなあと 생각합니다。

今年で5年目の1歳児担任

おやじのつぶやき

ウチは夫婦げんかをよくします。すると、必ず子どもが荒れてきます。大きな声で怒ったり、足で蹴ったりします。子どもの前では気をつけなないといけないと思いつつ、余裕がないと目の前でケンカしてしまします。子どもは周りの環境に非常に敏感で、良いこともよくわかつている存在だと言います。まだ、それを言葉で表現することができないので、色々な方法で表現しているのだと言います。それを大人が気づいて、大人自身の行動を直していかないといけないのでしょうか。

(：わかつていてもなかなかできない)

もうすぐ6才男児のおやじ

おやじのつぶやき

